

当院の新型コロナウイルス感染症対応について (第1波を振り返って)

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大に備え、当院では結核専用病床を新型コロナ病床に転用し、専従医療チームも編成して対応に当たってきましたが、幸い院内感染や職員への感染をみることなく、無事に第1波を乗り切ることができました。皆さまのご理解とご協力に感謝いたします。

都内の新規感染者数もピークを超え、受け入れ要請も途絶える状況が続いていることから、新型コロナ病床への転用を終了し、順次結核治療を再開していきます。結果的には新型コロナ病床の利用は1床に止まり、無事退院された後は3週間にわたって空床の状況が続いております。ウイルスがもっとも長期にわたって残留しやすいとされるステンレス表面でも1週間で死滅すると報告されていることに鑑みるならば、十分な経過期間を過ぎていると考えていますが、むしろ十分な消毒を実施した上で、順次受け入れを再開していきます。

今後、第2波、第3波も予見されておりますし、散発的な発生にも警戒は必要ですので、引き続き病院全体としての警戒体制は維持していきます。テントないしコンテナを利用した屋外での発熱外来は継続しますし、院内のゾーニングも徹底していきます。とくに、感染の疑いのある方は、陰圧室にて経過を観察させていただきます。2003年SARS流行の経験から、換気は感染防御にきわめて重要と考えられていますので、エアコンの使用は控え、全館の換気を促進します。また、ウイルス持ち込み防止の観点から、当面は面会も控えていただく必要があると考えています。引き続き、皆さまのご理解とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

公益財団法人結核予防会新山手病院
院長 横倉 聡